

# 経済・金融 フラッシュ

## 貿易統計 09年9月

～7-9月期の外需寄与度は前期比0.5%程度のプラスに

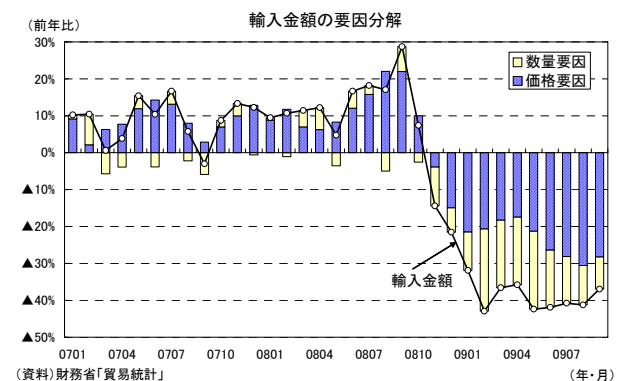
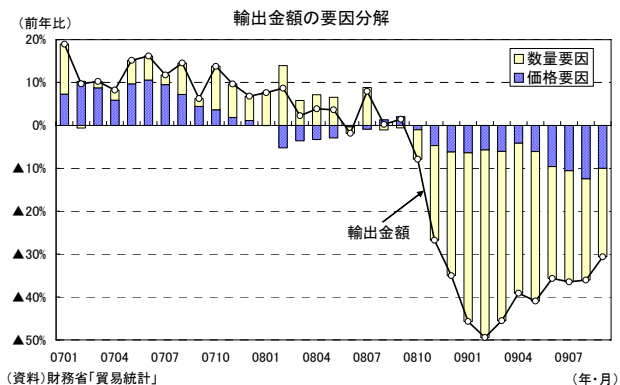
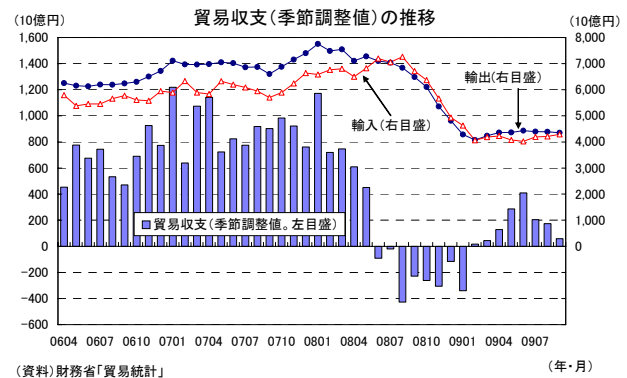
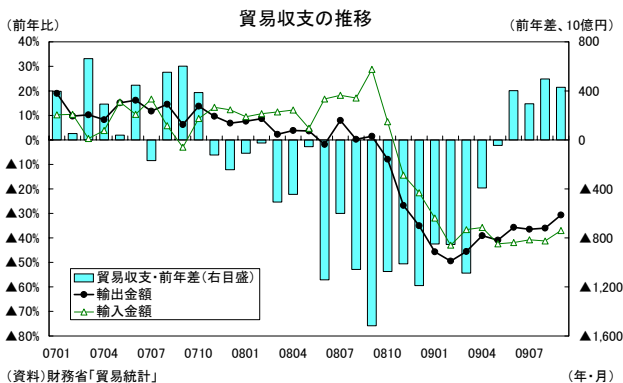
経済調査部門 主任研究員 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

### 1. 輸出入ともに減少幅が縮小

財務省が10月22日に公表した貿易統計によると、9月の貿易収支は5,206億円と8ヵ月連続の黒字となった。前年の水準が極めて低かったため、貿易黒字の前年比は472.3%の大幅増となったが、事前の市場予想（ロイター事前予想：6,298億円、当社予想は8,568億円）は下回った。

輸出（8月：前年比▲36.0%→9月：同▲30.7%）、輸入（8月：前年比▲41.3%→9月：同▲36.9%）ともに前年と比べた減少幅は大きく縮小した。季節調整済の貿易収支は586億円と8ヵ月連続の黒字となったが、黒字幅は3ヵ月連続で縮小している。



輸出の内訳を数量、価格に分けてみると、輸出数量が前年比▲21.8%（8月：同▲25.4%）、輸出価格が前年比▲11.3%（8月：同▲14.3%）であった。輸入の内訳は、輸入数量が前年比▲10.2%

(8月：同▲12.8%)、輸入価格が前年比▲29.8% (8月：同▲32.6%) であった。

## 2. 米国向け輸出の持ち直しが鮮明に

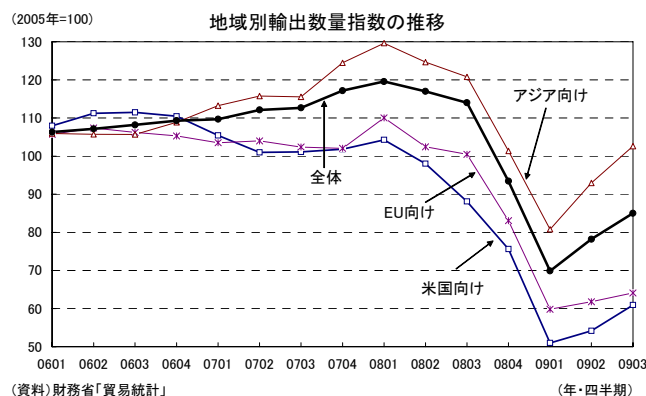
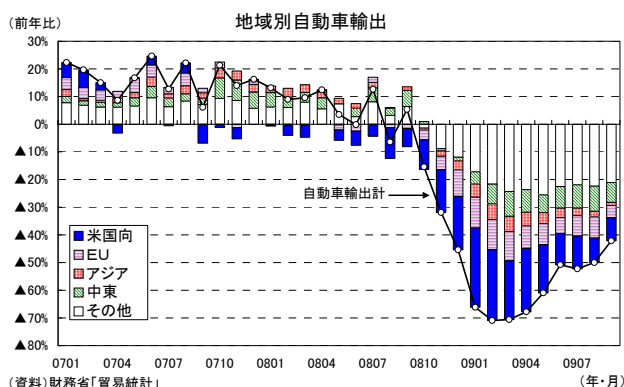
自動車輸出は前年比▲42.2%となり、8月の同▲50.0%から減少幅が大きく縮小した。中国向けが前年比8.5%と2ヵ月連続で増加したことなどから、アジア向け(8月：前年比▲23.5%→9月：同▲12.5%)の減少幅が急速に縮小したほか、米国向け(8月：前年比▲31.9%→9月：同▲29.8%)、EU向け(8月：前年比▲53.7%→9月：同▲37.8%)も減少幅が縮小した。一方、中東向け(前年比▲48.1%)、ロシア向け(前年比▲91.1%)は依然大幅な減少が続いている。

米国向けの自動車輸出は、09年1月に前年比▲80.7%まで落ち込んだ後、持ち直しの動きを続けてきた。しかし、7/24に開始された自動車買い替え支援策はすでに打ち切られており、9月の米国の自動車販売は大きく落ち込んだ。米国向けの自動車輸出は10月以降、減少幅が再び拡大することが懸念される。

9月の輸出数量指数を地域別に見ると、米国向けが前年比▲27.5%(8月：同▲29.3%)、EU向けが前年比▲31.7%(8月：同▲39.1%)、アジア向けが前年比▲9.6%(8月：同▲15.8%)といずれの地域向けも減少幅が縮小した。

7-9月期の輸出数量指数を季節調整値(当研究所による試算値)で見ると、米国向けが前期比12.5%(4-6月期：同6.2%)、EU向けが同3.8%(4-6月期：同3.3%)、アジア向けが同10.4%(4-6月期：同15.0%)、全体では同8.7%(4-6月期：同11.9%)となった。アジア向けが2四半期連続で前期比二桁の高い伸びとなり引き続き輸出の牽引役となっているが、回復が遅れていた米国向けも7-9月期には二桁の伸びとなった。一方、EU向けは下げ止まりの動きは見られるものの、欧州経済の停滞を背景に回復ペースは鈍く、その他地域(中東、ロシア等)向けの輸出は低迷が続いている。

輸入数量指数は4-6月期の前期比▲2.8%の後、7-9月期は同5.5%と5四半期ぶりの増加となった。国内生産の回復などを反映し、輸入数量はここに来て持ち直しの動きが鮮明となっている。



## 3. 7-9月期の外需寄与度は前期比0.5%程度のプラスに

9月までの貿易統計と8月までの国際収支統計の結果を踏まえて、7-9月期の実質GDPベースの輸出入を試算すると、輸出は前期比7%程度のプラスとなり、2四半期連続の増加が見込まれる。

一方、内需低迷を反映し減少が続いていた輸入は前期比 4%程度と、3 四半期ぶりの増加となろう。この結果、7-9 月期の外需寄与度は前期比 0.5%程度となることが予想される。引き続き成長率の押し上げ要因となるものの、輸入が増加に転じることを主因として 4-6 月期の前期比 1.6%に比べればプラス幅は大きく縮小するだろう。

7-9 月期は、住宅投資、設備投資の減少が続く一方、外需が増加を維持することに加え、エコカー減税・補助金などの政策効果で個人消費が 4-6 月期に続き増加することが見込まれるため、2 四半期連続のプラス成長となることはほぼ確実だろう（現時点では前期比年率 2%台を予想。7-9 月期・GDP の予測値は 10/30 の weekly エコノミストレーターで公表予定）。

---

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。